

FortiGate 一部モデルのディスクロギングについて

このたび Fortinet 社が提供する FortiGate 製品のファームウェアにて仕様変更がございましたので

以下の通りご報告させていただきます。

1. 対象製品について

【対象モデル】

- ・ FG-40C
- ・ FG-60C
- ・ FG-80C (パーツ No. : P05403-05, P05446-05 or later)
- ・ FG-100D (パーツ No. : P09340-04 or earlier)
- ・ FG-300C (パーツ No. : P09616-04 or earlier)
- ・ FG-200B (SSD 非搭載時)

【対象 OS】

Ver4.0 MR3 Patch12

2. 事象内容について

「1. 対象製品について」に該当する Fortigate 製品及び対象 OS にて、ディスクロギングが disable となり、デフォルトのログの保存先がディスクからメモリへ変更となります。この仕様変更により、元のコンフィグにてログの保存先をディスクに設定している場合でも、ファームウェアアップデート後にログの保存先がメモリへ変更となります。これらの機器で使用されている flash disk は一般的な製品特性として記憶素子単体への書き込み・消去可能回数に限りがあり、製品寿命をより長くお使い頂けるよう今回の仕様変更となります。

3. ファームウェアアップデート後の注意点

- ・ FG-80C に関しましては、アップデート後ハードディスクログ保存のコマンドが無くなり、保存出来なくなります。

・ 初回ログイン時に FortiCloud を有効にする旨のメッセージが表示されますが、FortiCloud は無効のままご利用ください。

長期間ログを保存する場合は、FortiAnalyzer もしくは Syslog サーバをご利用ください。

* 弊社では FortiCloud を提供・サポートしておりませんのでご注意ください。

・FG-40C及びFG-60Cはメモリロギングの機能がなく、ディスクロギングもdisableとなるため、デフォルトでFortiGate自身へのロギングが無効となっております。ローカルロギングが必要な場合はディスクロギングを有効化する必要があります。

・ファームウェアアップデート後もGUIのログの参照先(ログロケーション)がディスクの場合、メモリ上のログは表示されません。ログの参照先をディスクからメモリに変更する場合は、CLIより下記コマンドを実施ください。

```
config log gui
set log-device memory
end
```

※VDOMを使用している場合、config vdom [VDOM名]に続いてコマンドを実施ください。

4. ディスクロギングの有効化設定

ディスクロギングの有効化はCLIより設定が可能です。

```
config log disk setting
se status enable
end
```

※VDOMを使用している場合、config vdom [VDOM名]に続いてコマンドを実施ください。

※コマンド実施時に以下メッセージが出力されます。

```
Enabling disk logging on this FortiGate unit will impact overall performance and
reduce the lifetime of the unit. Fortinet recommends logging to FortiCloud.
```

以上